

# 巻頭言

## 心のスイッチ

(東井 義雄)

人間の目は、不思議な目  
見ようとする心がなかったら  
見ているも見えない

人間の耳は、不思議な耳  
聞こうという心がなかったら  
聞いていても聞こえない

頭もそうだ  
はじめからよい頭悪い頭の  
区別があるのではないようだ

「よしやるぞ!」と  
心のスイッチが入ると  
頭もすばらしい働きをしはじめる

心のスイッチが人間を  
つまらなくもし  
すばらしくもしていく

電灯のスイッチが  
家の中を明るくもし  
暗くもするように



支部長 佐々木 克己  
(東山の下小学校 昭60年度)

## 『スイッチON!』

令和4年度の教育活動がスタートして、前期前半が終了しました。昨年も一昨年も、計画していたことをその通りに実施できない状況が続きました。次回こそは制約も解け、思い切った活動ができることを期待しているのですが、その願いが未だ叶うことなく、現在に続いているような空気感を覚えることがあります。しかし、この閉塞的な捉え方は、大変危険だと私は思っています。なぜなら、できない理由を自分以外に転嫁してしまうからです。「状況が変わらないからできない」「周りの人がしていないからやらなくていい」「やりたいけど、しょうがない」できないことを正当化しても、自分に何のメリットもありません。この状態が続くと、自分にとっても、かかわっている子どもにとっても「失われた数年間」をつくる結果になるのではと、私は心配します。

私は、4月の始業式に上の詩を紹介しました。東井義雄さんの「心のスイッチ」です。詩の中に「心のス

イッチが人間をつまらなくもし、すばらしくもしていく」という言葉があります。私は、この言葉が大好きです。この感覚、この気持ちこそ、今必要なものだと思います。自分の目は、教師として高まりたい自分の姿を映そうとしているか。子どもの成長を喜びをもって見ようとしているか。自分の耳は、子どもや同僚が発する感嘆の声を聴こうとしているか。助けを求める声なき声を拾い上げようとしているか。心のスイッチが入ると、やりたいことや力を注ぎたいことが明確になってきます。

今年度、ときわ会は「新しい時代の教育に向け、自らを高め続ける一人一人を支える」ことをスローガンに掲げました。当支部も会員の主体性を大いに尊重し、また会員相互の結びつきを深め、さらに魅力ある支部運営に努めていきます。心のスイッチをONにして、みんなの力で魅力を感じる支部、入会した価値を見出せる支部にしていきたいと思います。